

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 〇〇 ポスター会場C-11

[P] 一般演題（ポスター） 「教育・研修・実務実習」

[P-144-C]

医療法・地域包括ケアの視点と、保険薬剤師療養担当規則への理解を軸とした中途薬剤師研修の構築と実践について

〇高岡 理奈, 山路 彩稀, 堀淵 浩二, 戸川 香苗, 山田 弘明 (スマイルホールディングス (株) スマイル調剤薬局グループ)

[P-147-C]

若手社員の研修受講における実態調査と研修内容についての検討

〇清水 正浩¹, 大野 遊², 内山 隼³, 横井 雄一⁴, 西田 有希⁵, 笠谷 周平⁶, 池田 有那⁶, 村本 泰樹⁷, 桜田 尚季⁸, 谷山 遼太⁹, 奥 雅裕¹⁰, 岩倉 祥太¹⁰, 野間 友一郎¹⁰, 井野 千枝子¹⁰, 大倉 康¹¹ (1. (株) なの花北海道 なの花薬局 江別元町店, 2. 北11条店, 3. 長橋店, 4. 札幌月寒東1条店, 5. 札幌南1条店, 6. 千歳店, 7. 新札幌店, 8. 美しが丘店, 9. 手稲駅前店, 10. 道央エリア事業部, 11. なの花北海道本部)

[P-150-C]

薬剤師と管理栄養士の協働によるフレイルに関する研修動画の作成（続報）

〇本島 利奈¹, 村上 阿津子², 臼澤 亜矢子³ (1. (株) アップルケアネット アップル薬局 小岩店, 2. 栄養部, 3. アップル薬局 まつしま店)

[P-153-C]

薬学実務実習における精神科実習の実施について～精神科病院薬剤師の立場から～

〇和田 智仁¹, 近藤 浩樹², 上條 千恵子², 三輪 歌織¹, 中澤 泰介¹, 佐藤 雅也¹, 渡邊 啓子¹, 羽佐田 祥浩¹, 三輪 高市³ (1. 社会医療法人 居仁会 総合心療センター ひなが 診療技術部 薬剤課, 2. ファーマライズ (株) 東海北陸支店 ファーマライズ薬局 日永店, 3. 鈴鹿医療科学大学 大学院 薬学研究科)

[P-156-C]

対人業務推進に向けたEBM手法における症例検討会の継続的評価

〇大貫 ミチ¹, 今井 真帆², 倉田 香織³ (1. 薬樹 (株) 薬樹薬局 宮前平2号店, 2. 薬樹 (株) 薬樹薬局 ライフ溝の口店, 3. 東京薬科大学)

[P-159-C]

災害医療への対応力向上を目的とした研修プログラムの開発と展開

〇緒方 孝行¹, 清水 隆也¹, 古市 和久¹, 木内 恵², 鈴木 日向子², 野村 洋介², 渡邊 暁洋^{3,4} (1. (一社) 日本保険薬局協会 災害対策・社会貢献委員会, 2. (一社) 日本保険薬局協会, 3. 兵庫医科大学 危機管理医学講座, 4. 日本災害医療薬剤師学会)

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 ポスター会場C-11

[P] 一般演題（ポスター） 「教育・研修・実務実習」

[P-144-C] 医療法・地域包括ケアの視点と、保険薬剤師療養担当規則への理解を軸とした中途薬剤師研修の構築と実践について

○高岡 理奈, 山路 彩稀, 堀淵 浩二, 戸川 香苗, 山田 弘明 (スマイルホールディングス (株) スマイル調剤薬局グループ)

【目的】 薬剤師教育の重要性は、もはや論を待たない。また第8次医療法や地域医療計画に鑑み、薬剤師に期する役割は益々大きい。一方、薬局運営において中途採用は、即戦力が期待されるが、保険薬剤師療養担当規則などへの理解は、個人差が大きい。そこで当社では、上記課題と制度動向を踏まえ、医療法・地域包括ケアの視点と保険薬剤師療養担当規則への理解を軸とした、中途薬剤師研修を構築したので報告する。

【方法】 研修は店舗でのOJTとWEB-Meetingを併用したワークセッション型とし、全5セッションで構成した。各セッションは複数の課題で構成され、以下（例示抜粋）の通り、実務を通じた課題解決の過程で制度・関連法規が学べるよう設問を工夫した。「心不全と思われる患者に服薬指導を行い、薬歴を記載してください。記載薬歴のどの箇所が、調剤管理料・服薬管理指導料、それぞれの算定論拠となりますか?」「薬局の掲示物や揃えるべき書類一覧をお渡しします。整備状況を確認してください。」「大建中湯などの漢方薬が継続処方されている患者への服薬指導を行いましょう。薬歴には継続服用の必要性について明記してください。」「医療安全管理指針に係る研修訓練に参加してください。当該研修の実施の必要性について調べてください。」「特定薬剤管理指導加算1算定の患者薬歴について、算定要件を満たしているか、局内で議論してください。」「在宅訪問の前に、当患者は医療保険と介護保険のどちらを使用しているかを調べ、薬学的管理指導計画を確認してください。また地域医療計画と地域連携薬局の関連について調べて下さい。」

【結果】 中途薬剤師全員が研修を修了した。実務的な症例知識に加え、制度や地域医療との接続、コンプライアンス意識の向上など多面的成果が見られた。

【考察】 複数課題を同時に負荷するスタイルは、視座を高め、調べる力・行動力といったコンピテンシー向上にも寄与したと考察する。

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 〇〇ポスター会場C-11

[P] 一般演題（ポスター） 「教育・研修・実務実習」

[P-147-C] 若手社員の研修受講における実態調査と研修内容についての検討

〇清水 正浩¹, 大野 遊², 内山 隼³, 横井 雄一⁴, 西田 有希⁵, 笠谷 周平⁶, 池田 有那⁶, 村本 泰樹⁷, 桜田 尚季⁸, 谷山 遼太⁹, 奥 雅裕¹⁰, 岩倉 祥太¹⁰, 野間 友一郎¹⁰, 井野 千枝子¹⁰, 大倉 康¹¹ (1. (株) なの花北海道 なの花薬局 江別元町店, 2. 北11条店, 3. 長橋店, 4. 札幌月寒東1条店, 5. 札幌南1条店, 6. 千歳店, 7. 新札幌店, 8. 美しが丘店, 9. 手稲駅前店, 10. 道央エリア事業部, 11. なの花北海道本部)

【目的】薬剤師には研修受講等で常に自己研鑽に励むことが求められており、経験年数の浅いうちから各種研修を受講して知識の幅を広げる必要がある。また、以前社内で実施した薬局長が若手職員に受講して欲しい研修内容の調査では、リスクマネジメントが最も高く、次いでコミュニケーションスキル、接遇という結果であった。本調査は、若手職員が求める研修の形態や内容、薬局長から求められている研修内容との差異を明らかにし、今後の社内研修の質的向上を目的とする。

【方法】2025年1月16日から2025年1月31日の期間中、弊社1～4年目薬剤師（41名）を対象に、研修受講に関する無記名式WEB質問紙調査を実施し、データを集計解析した。

【結果】アンケートの全回答者数は1年目11名、2年目10名、3年目9名、4年目7名の計37名（回答率90.2%）であった。今後の社内研修の実施方法の希望（複数回答可）に関しては、「オンライン研修」73.0%、「オンデマンド配信」56.8%、「集合研修」16.2%であった。受講を希望する研修内容に関しては「在宅に関する研修」、「リスクマネジメントに関する研修」が共に94.6%と最も高く、以前の調査で薬局長が若手職員に受講を求めた割合が他の研修と比較して高かった「コミュニケーションスキルに関する研修」は56.8%、「接遇に関する研修」は51.4%と約半数に留まった。

【考察】開催方法に関しては、自宅や店舗から気軽に受講可能なオンライン形式の需要が高いことが判明した。研修内容に関しては、リスクマネジメントは若手職員と薬局長共にニーズが高かったが、それ以外では、薬局長は対人スキル・若手職員は未経験の業務と、求める研修内容に差異があることが本調査で示唆された。今後、これらの内容を踏まえ、受講しやすい形式での開催を増やしたり、若手の希望する研修・薬局長の求める研修を組み込んだ若手職員向けの研修計画作成を進めていきたい。

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 皿 ポスター会場C-11

[P] 一般演題（ポスター） 「教育・研修・実務実習」

[P-150-C] 薬剤師と管理栄養士の協働によるフレイルに関する研修動画の作成（続報）

○本島 利奈¹, 村上 阿津子², 白澤 亜矢子³ (1. (株) アップルケアネット アップル薬局 小岩店, 2. 栄養部, 3. アップル薬局 まつしま店)

【目的】薬局利用の高齢者は、一般高齢者よりもフレイル該当者の割合が高いとされており、薬局にてフレイルを早期に発見し、適切に対応することは健康寿命の延伸に寄与すると考えられる。今回は、学習定着率が良いとされるフレイル研修動画を用いた研修を実施し、その後の活動実績を確認することで、薬局におけるフレイル予防への実務応用の可能性を検討する。

【方法】当社薬剤師および管理栄養士が作成したフレイルに関する研修動画を全32店舗に配布、視聴を促した。視聴直後は「興味を持った動画内容」「実践可能と感じた評価方法」等のアンケート調査を店舗単位で実施した。1か月後は活動実績として「業務に活かした内容」「実践した事例」等を同様に調査した。

【結果】視聴直後調査は30店舗、1か月後調査は28店舗から回答を得た。興味を持った動画内容として「簡易フレイルチェック」「たんぱく質の摂取」「運動によるフレイル予防」が多く挙げられ、実践可能と感じた評価方法は、「食生活チェックシート」が最多、続いて「指輪っかテスト」であった。1か月後の活動実績調査では、業務に活かした内容として「運動によるフレイル予防」が11店舗で最多、続いて「たんぱく質の摂取」が挙げられた。実践した事例は9例報告され、そのうち3例が運動の推進、3例が管理栄養士への栄養相談提案であった。

【考察】研修動画の視聴により1か月で活動実績に結びつけることができた。特に運動やたんぱく質摂取等、服薬指導の延長で行える内容が実践されやすい。管理栄養士への相談提案など他職種連携の促進も認められた。動画研修がフレイル予防への実務応用を可能とすることが示唆された。一方、簡易フレイルチェックや食生活チェックシートの活用等、服薬指導から一歩踏み込んだ患者アプローチ実践のためには継続した研修が望まれる。

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 〇〇 ポスター会場C-11

[P] 一般演題（ポスター） 「教育・研修・実務実習」

[P-153-C] 薬学実務実習における精神科実習の実施について～精神科病院薬剤師の立場から～

〇和田 智仁¹, 近藤 浩樹², 上條 千恵子², 三輪 歌織¹, 中澤 泰介¹, 佐藤 雅也¹, 渡邊 啓子¹, 羽佐田 祥浩¹, 三輪 高市³ (1.社会医療法人 居仁会 総合心療センター ひなが 診療技術部 薬剤課, 2.ファーマライズ (株) 東海北陸支店 ファーマライズ薬局 日永店, 3.鈴鹿医療科学大学大学院薬学研究科)

【目的】精神科医療は他科に比べて専門性が高く、特有の薬剤や治療方針を伴うが、薬局実習ではその理解が十分に得られにくい現状がある。そこで当院（総合心療センターひなが）では、2023年度より四日市薬剤師会およびファーマライズ薬局と連携し、薬局実務実習の一環として精神科病院薬剤師（以下、病院薬剤師）と協働した実習プログラムを実施している。本報告では、その中での病院薬剤師の教育的役割とその効果について述べる。

【方法】実習は保険薬局での実習中の薬学生を対象に2日間実施した。病院薬剤師が主導して、精神科医療の構造や入院治療の流れ、処方薬の特徴について講義を行い、加えて、病棟見学、持効性注射剤やクロザピンなどの特性と使用上の留意点についてのショートレクチャーを実施した。また、最終日には実習生と座談会を実施し、2日間の実習で得た内容について振り返る機会を設けた。

【結果】2023年度～2024年度に精神科実習に参加した実習生は25名であった。実習前は精神科病院や閉鎖病棟に対し否定的な印象を持つ学生が多数であったが、実際に保護室の体験や病棟見学、病院薬剤師からの専門的解説を通じて「清潔で落ち着いた環境」「薬剤師の専門性が高く、患者ケアに密接に関与している」との認識へと変化がみられた。

【考察】病院薬剤師は、抗精神病薬の適正使用、薬物療法のモニタリングにおいて中心的役割を果たしている。また、クロザピンの運用や副作用管理といった高度な知識が求められる場面も多い。一方で、多くの精神科病院では薬剤師数が限られ、入院患者の対応に加えて教育・指導業務を担うには人的資源が不足しているのが現状である。保険薬局と連携した本実習を通じて、薬学生に対して精神科薬物療法の理解を促すと同時に、病院薬剤師の専門性と臨床的役割の重要性を直接伝えることができた。今後も本実習を継続し、精神科医療の理解促進寄与していきたい。

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 ポスター会場C-11

[P] 一般演題（ポスター） 「教育・研修・実務実習」

[P-156-C] 対人業務推進に向けたEBM手法における症例検討会の継続的評価

○大貫 ミチ¹, 今井 真帆², 倉田 香織³ (1.薬樹（株） 薬樹薬局宮前平2号店, 2.薬樹（株） 薬樹薬局ライフ溝の口店, 3.東京薬科大学)

【目的】薬局では対人業務の重要性が高まっている。そこで、顧客課題に気づき適切に行動できる薬剤師の育成を目指して症例検討会を実施した。参加前後および研修終了4か月後でアンケートを実施するとともに、対人加算の算定状況を調査することで、参加者の意識変化と行動変容を明らかにすることを目的とする。

【方法】2024年7-9月期にEBM手法に基づく症例検討会を、対人加算（服薬情報等提供料1-3、外来服薬支援料1、服用薬剤調整支援料1・2）に関する内容で、薬剤師を対象に90分でzoomを用いて3回実施した。初回参加前(pre)と3回参加後(post)および研修終了4か月後（follow-up:f/u）にGoogle formを用いてアンケート調査を実施した。参加者属性、薬歴への意識、対人業務の取り組み状況等に関する51問を5件法で質問した。pre・post・f/u全てに回答があるものを分析対象とし、平均値に対する有意差検定(Paired-T)を行った。分析対象者の所属店舗の2024年6月、10月、2025年2月の対人加算の算定件数を確認した。

【結果】18名の参加者から、pre 17名、post 14名、f/u 11名の回答を得た。分析対象は10名であった。「アセスメントに記載すべき内容を十分理解している」(平均値3.1(pre) vs 2.8(post) vs 3.6(f/u), $p=0.082$ (pre-post), 0.011 (pre-f/u), 0.015 (pre-f/u))、「アセスメントを行うための患者情報を十分収集できている」(2.8 vs 3.2 vs 3.4, $p=0.165$, 0.343 , 0.015)等 4 項目で有意差が認められた。対人加算の算定件数合計は2024年6月 74件、10月 155件、2025年2月 117件となった。

【考察】アセスメント能力の向上につながる項目において、preとf/u間の有意差が認められたことから、4ヶ月間の維持ができていたことが示唆された。加算の算定数は、研修直後の10月が最も多かったが、各店舗の置かれる状況に違いがあるため、店舗状況などの細かい分析を行う必要がある。

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 14:40～15:20 血 ポスター会場C-11

[P] 一般演題（ポスター） 「教育・研修・実務実習」

[P-159-C] 災害医療への対応力向上を目的とした研修プログラムの開発と展開

○緒方 孝行¹, 清水 隆也¹, 古市 和久¹, 木内 恵², 鈴木 日向子², 野村 洋介², 渡邊 暁洋^{3,4} (1. (一社) 日本保険薬局協会 災害対策・社会貢献委員会, 2. (一社) 日本保険薬局協会, 3. 兵庫医科大学 危機管理医学講座, 4. 日本災害医療薬剤師学会)

【目的】地震や豪雨などの自然災害が各地で頻発する中、災害発生時における医療提供体制の維持が重要性を増している。災害時において、それを支える医療関係者には即時の判断力や対応力が強く求められる。こうした背景のもと、日本保険薬局協会災害対策・社会貢献委員会は、会員企業に属する医療関係者が被災地で適切な支援を行えるよう、災害研修プログラムを構築したので報告する。

【方法】研修プログラムは、2024年11月から2025年1月にかけてDMATや有識者など14名の災害専門家との協議を経て策定し、まずはeラーニングで災害支援の基本知識を学習し、その後対面での実地研修を受ける段階的学習方式を採用した。さらに同意が得られた実地研修修了者は、日本保険薬局協会による被災地支援を行う際に優先して出動要請を依頼する「災害支援員」として登録を行った。

【結果】2025年2月に「災害支援の基本」「薬剤師の役割と連携」「モバイルファーマシーの運用」など14本の動画をホームページ上で公開し、受講者が継続的に学びを深められる仕組みを整えた。3月末には、eラーニングの受講者は831名に達し、さらに東京で第一回実地研修を開催し、30名が参加した。その研修ではCSCA（Command&control、Safety、Communication、Assessment）の概念に基づくワークショップや、被災地映像を活用した危険予測トレーニング、通信機器「スターリンク」の設置演習、ストレスケアを想定したロールプレイなど、多面的な実務体験が行われ、修了者30名のうち29名が災害支援員として登録された。

【展開】今後は全国各地で定期的な実地研修を開催し、適切な災害支援を実施できる災害支援員の育成に貢献する方針である。